



一隅を照らそう
9月号

356号
毎月28日発行

E-mail: info@tougakuin.jp



あの日

住職 中島 有淳

総本山比叡山延暦寺の数ある堂宇の中に(※注)「灌頂堂」があります。ここは、一般の方も受けることが出来る『結縁灌頂』という行事が今でも実施されています。いわば仏弟子となる正式な道場です。一回三十人位で、七・八人がまとめて実施されます。各々覆面をし前の人の服を挿んで数珠繋ぎとなり、道場に入ります。教授師の説明があり、その指示に従い「仏弟子」となるための約束の文言を聴き、唱えます。幾つもの部屋を巡り作法を行います。護摩が焚かれ、神秘的な香りと音に包まれ、やがて敷曼陀羅の道場へと導かれます。そこでは「投花得仏」と言い、一人一人合掌した指の先に、櫛の葉を一枚挟んでもらい、僧侶のご真言を聴きながら合図の瞬間にその葉を下に散らすのです。

曼陀羅の壇に葉が落ちた場所を僧侶が確認し「大日如来!」とか「虚空像菩薩!」……とか大きな声で教えられ、自分との結縁の仏さまを告げられるのです。そのまま最極壇の部屋に導かれ、そこで最高位の僧侶によってこの日最終の「説諭」を受け、この時式衆の僧侶は、そこで「諸天が歓喜している内容の声明」唱え、道場を荘厳してくれるのです。

弟子たちよ、おまえたちは、あのあの、自らを灯火とし、自らをよりどころとせよ、他を頼りとしてはならない。この法を灯火とし、よりどころとせよ、他の教えをよりどころとしてはならない。

弟子たちよ、これまでおまえたちのために説いたわたしの教えは、常に聞き、常に考え、常に修めて捨ててはならない。もし教えのとおりに行うなら常に幸いに満たされるであろう。

教えのかなめは心を修めることにある。だから、欲をおさえておのれに克つことに努めねばならない。身を正し、心を正し、ことばをまことあるものにしなければならない。貪る(あきら)むをやめ、怒りをなくし、悪を遠ざけ、常に無常をわすれてはならない。

(略) 出典、「仏教伝道協会刊 フツダのおしえ・『お経』のことば」より
その時の雰囲気は最高潮です。終わって覆面を解き、受者は新しい世界(仏弟子)に生まれ変わったのです。

七、八年位前、私はこの「結縁灌頂」の最後の部屋で、受者達に「修了証」を受けました。その時の戒弟たちの緊張と喜びに満ちた顔はとても印象的でありました。

この日、最極壇で「説諭」されたお方は、当時山科毘沙門堂門跡門主で次席探題の叡南寛範大僧正でした。師は去る七月二十六日に遷化されました。享年九十八才。

慎んで冥福をお祈りし、その折の「説諭」を胸に刻み込んでおられます……合掌。

(※注) 灌頂 智水を弟子の頭頂に注ぐ作法によって、仏の位を継承する儀式。

折りふしのはな



keiko

アンスリウム
南国情緒たつぷりの
アンスリウム
先日 とある駅の構内に
とても立派なアンスリウムが
たくさん飾ってありました
園芸農家の方の御苦労に
想いを馳せつゝ
往く夏を惜しみて
しばし佇み (遊)

行事案内

- 九月八日 午後二時
薬師如来大護摩供
 - 九月十二日 午後二時
智泉院法要日(於・日本橋茅場町)
 - 九月十五日(金) 年一回・午後二時
ぜんそく平癒祈禱
 - 九月十八日 午後二時
観音経誦法要(於・神木観音堂)
 - 九月二十八日 午後二時
不動明王大護摩供
- *毎朝六時の朝参り(公開)を実施しております
ご都合のよろしい時にはご一緒にどうぞ

〈等覚院 不動尊ご巡行 遠方出立祈念 円坐舞台〉

期日：十月四日(水) 午前十時〜午後五時

地域に続く當山の「不動尊ご巡行」。昨年全国の新聞に掲載されると、遠方からの巡行依頼が寄せられ、まず東海地方を巡行。今後予想される遠方への出開帳に先立ち、旅の幸先を祈念する出立の儀を行います。法要と広間での座談会等。参加費五千元。昼食各自。特別紙札授与、来賓有。申込・詳細はホームページより。(副住職・光信)

あどがた

○福島第一原発の処理水の海への放出が24日より始まった。今年度放出はタンク30基分。これから三十年は続く。中国は早速に抗議の日本産水産物を全面禁輸と…。安全と安心の違いが微妙。
○ロシアのプリゴジン氏の搭乗機が墜落し死亡。北朝鮮の衛星が何度も打ち上げられたり、インドの衛星が月に着陸したり…と、とにかく世界のニュースはめまぐるしい。日本は次期戦闘機の輸出を容認し、軍事費も大幅に増大されると…。
○第一〇五回全国高校野球は慶應(神奈川)が仙台育英(宮城)を破って一〇七年ぶりに優勝。高校野球は予選から毎回勝ち進んで頂点を決める試合だけに盛り上がりです。
○暗くなるコオロギや虫の音が聞けるようになってきました…。九月はお彼岸の月です。お月見の風情も格別です。合掌